

**【19.1】**

実数  $x, y$  が不等式

$$x \leq 2y \wedge y \leq -x^2 + 3x - \frac{1}{4} \quad \dots\dots(1.1)$$

を満たすとき,

$$\frac{x^2}{2x^2 - 2xy + y^2} \quad \dots\dots(1.2)$$

のとり得る値の範囲を求めよ.

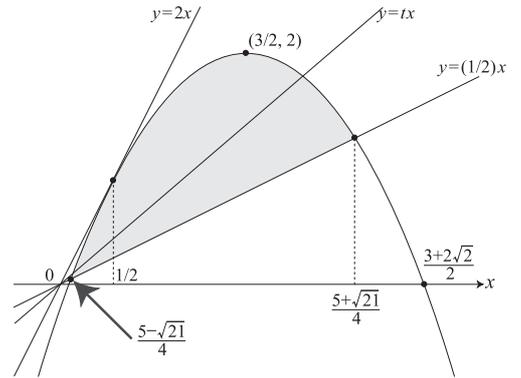
**【解答】**

(1.1) の表す領域  $\mathcal{D}$  内の点に対して,  $x \neq 0$  としてよいので,  
 (1.2) の関数  $u(x, y)$  において,

$$u(x, y) = \frac{x^2}{2x^2 - 2xy + y^2} = \frac{1}{2 - 2 \cdot \frac{y}{x} + \left(\frac{y}{x}\right)^2} \quad \dots\dots(1.3)$$

ここで,  $\frac{y}{x} = t$  と置けば,

$$u(x, y) = \frac{1}{t^2 - 2t + 2} = \frac{1}{(t-1)^2 + 1} \stackrel{\text{put}}{=} v(t) \quad \dots\dots(1.4)$$



このとき,  $\mathcal{D}$  内の点  $(x, y)$  に対して,  $t (= y/x)$  のとり得る値の範囲は, 上図において,  
 領域  $\mathcal{D}$  と直線  $y = tx$  が共有点を持つような傾き  $t$  のとり得る値の範囲であるから,  
 原点通過直線  $y = tx$  と放物線  $y = -x^2 + 3x - \frac{1}{4}$  が

$$-x^2 + 3x - \frac{1}{4} \geq \frac{1}{2}x \iff \frac{5 - \sqrt{21}}{4} \leq x \leq \frac{5 + \sqrt{21}}{4} \quad \dots\dots(1.5)$$

の範囲のある点  $x = x_0$  で接する条件

$$-x^2 + 3x - \frac{1}{4} - tx = -(x - x_0)^2 \wedge \frac{5 - \sqrt{21}}{4} \leq x_0 \leq \frac{5 + \sqrt{21}}{4} \iff x_0 = \frac{1}{2} \wedge t = 2 \quad \dots\dots(1.6)$$

を考慮して,

$$\frac{1}{2} \leq t \leq 2 \quad \dots\dots(1.7)$$

従って,  $v(t)$  の (1.7) における最大値・最小値を調べればよい. 即ち,

$$\frac{1}{2} \leq \frac{1}{(t-1)^2 + 1} \leq 1 \iff \frac{1}{2} \leq v(t) \leq 1 \iff \frac{1}{2} \leq u(x, y) \leq 1 \quad \dots\dots(1.8)$$

【19.2】

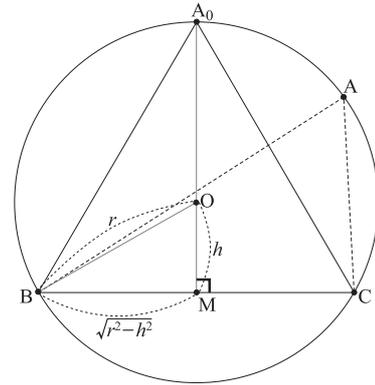
- (1) 半径  $r$  の円に内接する三角形の面積の最大値を求めよ。  
 (2) 空間内の点  $O$  に対して、4 点  $A, B, C, D$  を

$$OA = 1, \quad OB = OC = OD = 4$$

を満たすように配置するとき、四面体  $ABCD$  の体積の最大値を求めよ。

【解答】

- (1) 右図のように、 $BC$  を中心  $O$  の下側に固定したとき、三角形  $ABC$  の面積を最大にする  $A$  は  $A_0$  ( $BC$  の垂直 2 等分線と円との交点) の位置である。このとき、 $BC$  の中点を  $M$  として、 $OM = h$  ( $0 \leq h < r$ ) と置けば、三角形  $A_0BC$  の面積  $S$  は、



$$S = \frac{1}{2} \times 2\sqrt{r^2 - h^2} \times (r + h) = \sqrt{(r + h)^3(r - h)} \quad \dots\dots(2.1)$$

ここで、(2.1) 右辺の根号内の式を  $u(h)$  と置けば、

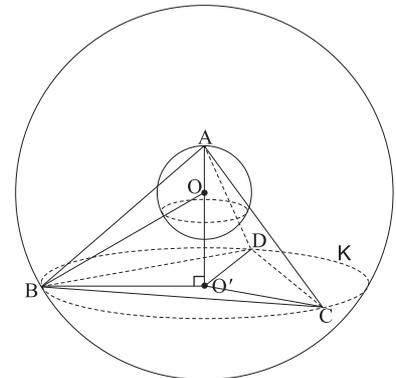
$$u'(h) = 3(r + h)^2(r - h) - (r + h)^3 = 2(r + h)^2(r - 2h) \quad \dots\dots(2.2)$$

(2.2) により、 $u(h)$  は  $h = r/2$  において極大かつ最大となる。即ち、

$$\max .u(h) = \frac{27r^4}{16} \iff \max .S = \frac{3\sqrt{3}r^2}{4} \quad \dots\dots(2.3)$$

このとき、 $\angle BOM = \angle BA_0C = 60^\circ$  となり、三角形  $ABC$  は正三角形である。

- (2)  $OB = OC = OD = 4$  より、3 点  $B, C, D$  は  $O$  を中心とする半径 4 の球面上にある。この 3 点を通る平面  $\pi$  と球面との交円  $K$  の周上に 3 点  $B, C, D$  を配置するとき、(1) により、三角形  $BCD$  の面積を最大にするのは正三角形の 3 頂点となる位置に配置したときである。



そこで、 $K$  を中心  $O$  からの距離が  $h$  ( $0 \leq h < 4$ ) となる位置にとり固定する。このとき、四面体  $ABCD$  の体積が最大となるのは三角形  $BCD$  を正三角形とし、 $A$  を直線  $OO'$  と半径 1 の球面との上側の交点の位置に配置したときである。このとき、四面体  $ABCD$  の体積  $V$  は、

$$V = \frac{1}{3} \times \frac{3\sqrt{3}}{4} \left( \sqrt{16 - h^2} \right)^2 \times (h + 1) = \frac{\sqrt{3}}{4} (16 - h^2)(h + 1) \quad \dots\dots(2.4)$$

ここで、 $0 \leq h < 4$  の範囲において、 $v(h) = (16 - h^2)(h + 1)$  と置けば、

$$v'(h) = -2h(h + 1) + 16 - h^2 = 16 - 2h - 3h^2 = (2 - h)(8 + 3h) \quad \dots\dots(2.5)$$

(2.5) により、 $v(h)$  は  $h = 2$  において極大かつ最大となる。即ち、

$$\max .v(h) = 36 \iff \max .V = 9\sqrt{3} \quad \dots\dots(2.6)$$

**【19.3】**

xyz 空間内に 2 点 A(1, 2, 1), B(3, 1, 0) と直線  $\ell: x = y, z = 0$  がある.  
 点 P が直線  $\ell$  上を動くとき,

$AP + BP$  を最小にする点  $P_1$  の座標,  $|AP - BP|$  を最大にする点  $P_2$  の座標

をそれぞれ求めよ.

**【解答】**

$\ell$  上の点  $H(t, t, 0)$  と点 A(1, 2, 1) を結ぶベクトル

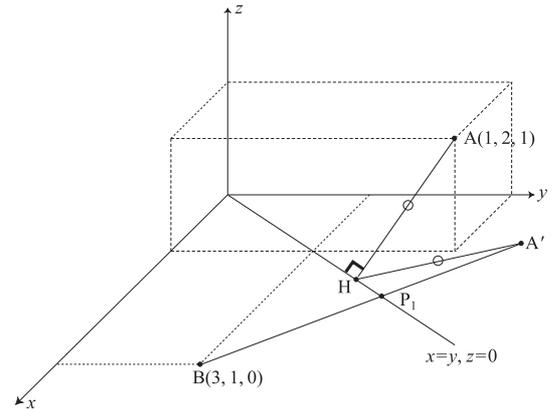
$$\overrightarrow{AH} = \begin{pmatrix} t-1 \\ t-2 \\ -1 \end{pmatrix} \quad \dots\dots(3.1)$$

に対して,  $\ell$  の方向ベクトル  $\vec{d} = (1, 1, 0)$  との内積を考え,

$$\vec{d} \cdot \overrightarrow{AH} = 0 \iff t = \frac{3}{2} \quad \dots\dots(3.2)$$

より,  $H(3/2, 3/2, 0)$  を得るので,

$$|\overrightarrow{AH}| = \left| \left( \frac{1}{2}, -\frac{1}{2}, -1 \right) \right| = \sqrt{\frac{3}{2}} \quad \dots\dots(3.3)$$



(3.3) により, A を  $\ell$  の周りに回転した  $xy$  平面上の点  $A'$  は,  
 $\ell$  に垂直な方向の  $xy$  平面内のベクトル  $\vec{n} = (-1, 1, 0)$  を用いて,

$$\overrightarrow{OA'} = \overrightarrow{OH} + \sqrt{\frac{3}{2}} \times \frac{\vec{n}}{|\vec{n}|} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 3 \\ 3 \\ 0 \end{pmatrix} + \frac{\sqrt{3}}{2} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 3-\sqrt{3} \\ 3+\sqrt{3} \\ 0 \end{pmatrix} \quad \dots\dots(3.4)$$

と表せるので,

$$A' \left( \frac{3-\sqrt{3}}{2}, \frac{3+\sqrt{3}}{2}, 0 \right) \quad \dots\dots(3.5)$$

次に,  $xy$  平面上の直線  $A'B$  の方程式は, その方向ベクトルを  $\overrightarrow{A'B}$  と平行なベクトル  $(\sqrt{3}, -1, 0)$  にとり,

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sqrt{3}t+3 \\ -t+1 \\ 0 \end{pmatrix} \quad \dots\dots(3.6)$$

と表せるので, 求める点  $P_1$  は直線  $A'B$  と  $\ell$  との交点であり, (3.6) において  $x = y$  として,

$$\sqrt{3}t+3 = -t+1 \iff t = -\sqrt{3}+1$$

従って,

$$P_1(\sqrt{3}, \sqrt{3}, 0) \quad \dots\dots(3.7)$$

次に、 $A'$  の  $\ell$  に関する対称点を  $A''$  とすれば、  
 (3.4) におけるベクトル  $\vec{n}$  を用いて、

$$\begin{aligned} \vec{OA'} &= \vec{OH} - \sqrt{\frac{3}{2}} \times \frac{\vec{n}}{|\vec{n}|} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 3+\sqrt{3} \\ 3-\sqrt{3} \\ 0 \end{pmatrix} \\ \iff A'' &\left( \frac{3+\sqrt{3}}{2}, \frac{3-\sqrt{3}}{2}, 0 \right) \quad \dots\dots (3.8) \end{aligned}$$

このとき、直線  $A''B$  の方程式は、  
 $A''B$  と平行なベクトル  $(\sqrt{3}, 1, 0)$  を用いて、

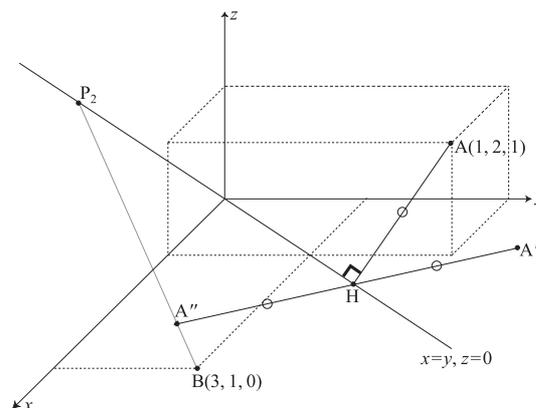
$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sqrt{3}t+3 \\ t+1 \\ 0 \end{pmatrix} \quad \dots\dots (3.9)$$

と表せるので、求める点  $P_2$  は直線  $A''B$  と  $\ell$  との交点であり、(3.9) において  $x=y$  として、

$$\sqrt{3}t+3 = t+1 \iff t = -\sqrt{3}-1$$

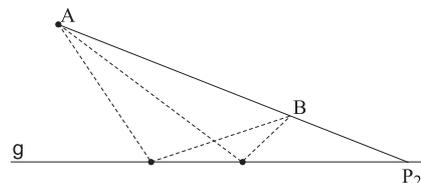
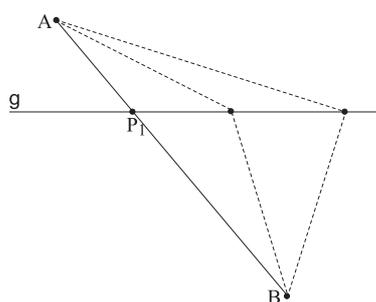
従って、

$$P_2(-\sqrt{3}, -\sqrt{3}, 0) \quad \dots\dots (3.10)$$



**[Note]**

直線  $g$  に関して反対側にある 2 点  $A, B$  と  $g$  上の動点  $P$  に対して、折れ線の長さの和  $AP+BP$  を最小にする点  $P$  は、三角不等式  $AP+BP \geq AB$  における等号成立条件、即ち、線分  $AB$  と  $g$  との交点  $P_1$  である。また、直線  $g$  に関して同じ側にある 2 点  $A, B$  と  $g$  上の動点  $P$  に対して、折れ線の長さの差 (の絶対値)  $|AP-BP|$  を最大にする点  $P$  は、三角不等式  $AP-BP \leq AB$  における等号成立条件、即ち、直線  $AB$  と  $g$  との交点  $P_2$  である。



**【19.4】**

半径 1 の円周上に 3 点 A, B, C をとる.  $BC = 1$  のとき,  $AB + AC$  の最大値を求めよ.

**【解答】** - 等長変換 -

Fig.1 において,  $OB = OC = BC = 1$  より,

$$\angle BOC = 60^\circ \iff \angle BAC = 30^\circ$$

このとき, 線分 CA の延長上に点 A' を

$$AB = AA'$$

を満たすようにとれば,

$$\begin{cases} \angle AA'B = \angle ABA' = 15^\circ \\ AB + AC = AA' + AC = CA' \end{cases}$$

より,  $\angle BA'C = 15^\circ$  を満たしつつ,  
線分 CA' の長さを最大化すればよい.

このとき, A' は定点 B, C から見込む角が一定値  $15^\circ$  を保って移動するので,  
Fig.2 の円 (長さ 1 の弦 BC に対する中心角  $\angle BOC = 30^\circ$  の円) の周上を動く.

従って, CA' の長さを最大にする A' は, CA' がこの円の直径となる点 A'' の位置である.

$$\therefore AB + AC = CA' \leq CA'' = \frac{1}{\sin 15^\circ} = \frac{1}{\sin(45^\circ - 30^\circ)} = \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{3} - 1} = \sqrt{2}(\sqrt{3} + 1)$$

以上より, 求める最大値は  $\sqrt{6} + \sqrt{2}$  である.

**【別解】** - 正弦定理 -

$\angle ABC = b, \angle ACB = c$  と表す.

Fig.3 において,  $\angle BOC = 60^\circ$  より外接円の半径は 1 である.

このとき,  $\triangle ABC$  に対する正弦定理により,

$$\frac{AC}{\sin b} = \frac{AB}{\sin c} = 2 \times 1 \iff AB = 2 \sin c \wedge AC = 2 \sin b$$

が成り立つので,

$$\begin{aligned} AB + AC &= 2(\sin b + \sin c) \\ &= 2 \times 2 \sin \frac{b+c}{2} \cos \frac{b-c}{2} = 4 \sin 75^\circ \cos \frac{b-c}{2} \\ &\leq 4 \times \frac{\sqrt{3}+1}{2\sqrt{2}} \times 1 = \sqrt{6} + \sqrt{2} \end{aligned}$$

